

## 会 議 録

会 議 の 名 称	第1回宍粟市地域公共交通会議(平成30年度)	
開 催 日 時	平成30年6月21日 14時00分～	
開 催 場 所	宍粟市役所 3階 庁議室	
委員長・会長 氏名	会長（副市長）中村 司	
委 員 氏 名	(出席者) 別紙のとおり	(欠席者) 別紙のとおり
事 務 局 氏 名	まちづくり推進部 富田部長 市民協働課 小河課長、岩露副課長、福田係長、小原主査 一宮市民局まちづくり推進課 菟場主査 波賀市民局まちづくり推進課 梶本主事 千種市民局まちづくり推進課 中井主査 健康福祉部障害福祉課 平瀬主査	
傍 聴 人 数	0人	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開	(非公開の理由) ー
決 定 事 項	(協議事項) 1. 平成31年度フィーダー系統確保維持計画(案) ⇒承認	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 (記名押印)	(委員長等) 会 長 中 村 司	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局 会 長 事務局	1. 開会 2. あいさつ 3. 委嘱状の交付 4. 宍粟市地域公共交通会議委員の紹介 5. 宍粟市地域公共交通会議の趣旨説明 6. 宍粟市地域公共交通会議副会長の任命
会 長 事務局	7. 報告 報告事項について事務局説明を。 (1) 公共交通再編後 3 年目の見直しについて説明
会 長 委 員	何かご意見等はあるか。 ●利用状況の実績表について、見直し基準「1.5 人/便」を上回る路線の色分けをしていただくとよりわかりやすい。
事務局	⇒見直し基準「1.5 人/便」を上回る路線は戸原線、蔦沢線、土万線、鷹巣線となっている。「0.7 人/便」を下回る路線は、下三方線、河原田線、公文線、小原溝谷線、千町線、黒原線、谷今市線、水谷線、飯見線、音水線、奥西山線、七野線及び内海線となっている。残りの路線は、「0.8～1.4 人/便」で推移している。
委 員	●1 便あたりの利用状況とあるが、沿線人口が多い地域と少ない地域で差があると思うが、利用状況の実績表はどのように算出されているのか。利用実績には沿線人口の違いも考慮してもらいたい。
事務局	⇒路線バスは複数の自治会を跨いで運行している。地域内に住んでおられる方の多い少ないはあるが、現在、見直し基準としているのは、1 便あたりの人数で算出している。まず、見直しにあたっては、既に実施している利用者への聞き取り調査の結果や、これから実施する利用の少ない路線の関係地域の方に「なぜ乗っていただけないのか」ということを確認し、見直しを考えたい。
委 員	●資料「見直しの考え方」のなかでバス事業年度の 9 月末の利用状況をもって見直しの判断をすることのだが、地域公共交通会議を 9 月以降にもう一度開催し、見直しの内容を協議するということではどうか。今後のスケジュールを教えてください。
事務局	⇒平成 30 年 9 月末の利用状況をもって一定の案を作成し、秋ごろに委員の皆さんに相談させていただきたい。その後、協議いただく場が何回設けられるかはわからないが、認可等の手続きを考えると、1 月下旬に最終決定をしていただく予定である。
委 員	⇒ダイヤの見直しもあわせて行うということではどうか。2 年前からバス利用推進員としてバス旅などの利用促進に取り組んできた。そのなかで、資料「聞き取り調査結果」の 13 番の意見のとおり、染河内から三方方面の 9 時の便に乗継ができない。また、循環線の 16 時頃の便を見ることがあるが、ほとんど利用者がいない。そういったダイヤの見直しも自治会を通じて総合的にされるということではどうか。具体的にわかっていればもう少し詳しく全体のスケジュールを教えてください。

事務局	⇒細かいダイヤ改正の意見等の聴取をどこまで行うかなどは詳しくは決定していないが、まずは再編後3年後の見直しとして路線の統合等を検討しているところである。ダイヤ改正などは運行のプロであるウエスト神姫のご協力いただきながら検討していきたい。これまでのご意見ご要望として例えば「聞き取り調査結果」の13番のとおり、スポニック一宮まで利用できるようにした場合、別の場所の利用ができなくなるなど、ほかのところでは影響が出ることからお断りすることもある。これらのご意見・ご要望で反映できるところはしていきたい。これまでも、1年ごとに軽微な変更を行ってきた。今年度については、3年目ということもあり、特に利用人数の少ない路線の関係地域のご意見を聞いていく必要があると考えている。
委員	●0.7人以下の大幅な再編を検討する路線が多くあるが、自治会へのお知らせはされているか。
事務局	⇒毎月の利用状況は自治会長に広報とあわせてお伝えしている。また、見直しの考え方については市民の方にも知っていただくために4月号広報でお知らせした。
委員	⇒地域の声とはどのような方法で聴かれるのか。
事務局	⇒自治会長さんに相談した限りでは、「今は運転できるけど近い将来に利用する年齢層を対象とすることが効果的ではないか」と聞いている。自治会を通じて地域の方に集まっていただくか、老人会等の集まりとあわせて意見交換会の実施を考えている。
委員	⇒老人会山崎支部では毎月例会を開催し、約180名が防災センターに集まっている。残念ながら今まで一度もバスに関しては取り上げたことが無かった。例会では講師を招いて勉強会をしているので、できれば一度足を運んでいただければと考える。また、各支部においてもそういう機会を有効に活用いただきたい。
事務局	⇒市では行政施策の説明をする「出前講座」を行っており、一定の人数が集まっていたことで職員を派遣している。バスに関する取り組みについて、日程等ご連絡いただければ調整させていただく。
委員	●社会福祉協議会でサマーボランティアスクールという取組みのなかで、町域ごとに4会場を設け、イベント開催時には路線バスを利用するよう呼びかけをしている。昨年は、千種で老人会の女性リーダー研修会を開催したときにも、バスを利用していただくよう呼びかけをした。昔はバスに乗ることは当たり前であったが、自動車の普及に伴いバスに乗る習慣が無くなってきている。会議や催しなどバスを使うことをブームのようにしていれば利用者数も増えていくと考える。
委員	●これから再編するうえで、バスを利用するなり動いている人がどんな目的でどこに行っているのかを把握しておかないと効果が無い。再編の内容と利用する人の方向が違えば、いくら利用していただきと言っても利用にはつながらないので、少なくともバスを利用している人や送迎してもらっている人にバスを利用してもらうためにはどうしたらいいのか、また、ダイヤやルートさらにはバス停の場所について、ミスマッチを埋めていくために、あらかじめ考え方を整理しておかないと、行って話を聞くだけではなかなか答えが出てこない。どんな声を聴くのかを決めてから行く方が限られた時間で効率的と考える。ま

	<p>た、再編には経費も必要となるので、今の予算内なのか、多少増えても実施するのかの決断も重要である。限られた予算を効率的に使うことが再編の重要なところである。</p>
事務局	<p>⇒これから地域に出向いてご意見を聞くときには、市としてのテーマをもち、それを市民のみなさんにもお示しするなかで意見交換を実施したい。利用者への聞き取り調査については、利用目的やバス以外の移動手段があるかなども分析項目として実施しており、今後の見直しの検討材料としたい。</p>
ウエスト神姫	<p>⇒再編から3年目に突入しているが、なかなか利用が伸びていない。限られた便数の中で効率的に運行するためには路線ごとの性格付けや分析をしていく必要がある。また、乗ったことが無い方、乗り方がわからない方もおられるので、乗り方の教室なども実施していきたい。</p>
委員	<p>⇒小学校などでの乗り方の教室も大事であるが、せっかく高齢者の方が定期的に集まる機会があるのであれば、高齢者向けのバスの乗り方の教室も実施してみてはどうか。老人会の例会も座学のみ行うより効果的と考える。</p>
ウエスト神姫	<p>⇒高齢者向けの取組みも今後は必要と感じているので、機会があれば市を通じて依頼いただければ取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>●市の路線バスについて一番問題なのが毎日運行していないことだと考える。便利な所に住んでいれば30分毎に運行している。また、宍粟市では1日3往復しかないところもあり、今日の会議のように日時が決まっているようなことにバスを利用しようとしてもできない。利用者としては、1日3往復ではなく定期的な運行と、乗継せずに循環バスのルートでの運行があれば利用はしやすい。ただ、これまで全く路線バスが無かったところからバスが走りだしている。バスとの時間に合わせて予定を組むことが大事とは考えている。</p>
事務局	<p>⇒毎日10分おきにバスが運行していることが理想ではあるが、財政的にも厳しい状況であるため、地域の方の声を聴くなかで見直しの内容は考えていく。</p>
委員	<p>⇒行政の公共交通の運行のための負担は大きいものであるが、例えば医療施設を地域ごとに設けるよりも、医療施設1カ所へ路線バスによる通院の移動手段を確保する方が経費を抑えられることから、公共交通は単なる移動手段ということではなく効率的な行財政としての役割は果たしていると考えられる。バスを使う人も使わない人も「自分のこと」だと思ってご理解いただければありがたい。</p>
委員	<p>●「0.7人/便」を上回っている路線は、山崎の路線が大半であるが、そのなかでも毎日運行ではない路線も利用が伸びている。北部の一宮・波賀・千種のうち鷹巣線は再編当初より利用が多いが原因を分析されているか。</p>
事務局	<p>⇒これまで、交通費が高いタクシーしか移動手段がなかったが、バスを200円で利用できるようになったことで、地域のグループで定期的に終点のエーガイヤまで温泉や食事に出かけられているようである。バスの運行に用事を合わせて利用していただくことが必要と考える。</p>
委員	<p>●バスを利用したくても時刻表の見方がわかりにくいという声を聞くが、相談窓口は設けてられているか。</p>
事務局	<p>⇒市役所にも運行時間やルートのお問い合わせをいただいております。また、地域で活動されているバス利用推進員や運行事業者にもご対応いただいているところです。</p>

委員	●はつらつチケットの情報を初めて知ったが、どのくらい発行されているか。利用者が少ないのであれば、周知啓発が行き届いていないのではないか。また、仮に染河内から山崎まで行く場合に、乗継券を利用すると200円で行けるが、はつらつチケットは1枚で200円分の効果があるのか。
事務局	⇒はつらつチケットについては、周知が足りていないと感じている。先日は老人会の総会で資料を配布させていただいた。平成30年5月より配布を開始し現在127名の方にご利用いただいている。運転免許証を返納し、運転経歴証明書の交付を受けられた方は、神姫バスグループの路線バスで現金乗車に限り半額で利用できる。はつらつチケットは1枚が100円分となっており、一人井戸限り100枚交付しており、100回分は無料で利用できる。
委員	●フリー降車は始まったが、高齢化社会ではフリー乗車も考えていかないと、なかなか利用が進まないのではないか。導入には、やはり道路交通法上の問題があるのか。
ウエスト神姫	⇒平成30年4月よりフリー降車を開始した。開始前にフリー乗車も検討したが安全面を重視し降車のみフリーとしている。フリー乗車の要望もあるが、今後の利用状況や安全面を考えながら導入を検討していきたい。
委員	⇒人の乗降については認められているが、法的にとということであれば、交通量が多いときや駐車禁止区域では当然乗降はできない。それをクリアすればフリー乗車も可能だが、駐車帯などほかの交通に影響が無い場所でないとも認められないため慎重に検討いただきたい。
委員	●バス停の名称の変更手続きは必要か。9月より森林大学校が旧染河内小学校に来るので「森林大学校前」としてほしい。
事務局	⇒学校の統廃合によりバス停名の変更が必要なところがある。バス停名の変更のためには経費が必要となるので、平成31年度の見直しと合わせて変更を行いたい。
委員	⇒バス停の移動なども含めて地域の意見をよく聞いていただき、いい方向への見直しをお願いする。
会長 事務局 会長	<p><b>8. 議事</b></p> <p>議事について事務局説明を。</p> <p>(1)平成31年度フィーダー系統確保維持計画(案)について、説明 何かご意見等はあるか。 異議なし</p>
事務局 ウエスト神姫	<p><b>9. その他</b></p> <p>宍粟市交通死亡事故多発非常事態宣言について、説明 未来のバス絵画コンクールについて、説明 貨客混載事業の取組みについて、説明</p> <p>(意見無し)</p>
	<b>10. 閉会</b>